

# 「やわつわ」

井上あやか

なんで わたしはわたしなんだろう  
「わたし」でいなくちゃいけないだろう  
だれかの鼻へ流れる 甘い甘い 金木犀の香りになりたかった  
まあるく音響く か弱くさみしい空気でいたかった  
生受け止めるあなたのその綺麗な爪 おっとみつけていたかった  
だれかの頬つたう 必然の あたたかい涙がよかった

名前も場所も知らない遠い遠い外国の海でさえ、「生きろ」とわたしにいつている

悲しみより脈打つ鼓動を  
春よりやさしさを

愛なんてわからない 永遠に  
わたしの眼は遥か向こう 赤い空を見つめている  
やさしさ なんてあるのだろうか  
大嫌いなわたしにやさしい日々なんて来るんだろうか  
「さよなら」なんて誰だっけって言いたくない  
だから、木々に、優しい植物になりたがったんだ

この詩は京都オレンジの会の山田孝明さんによる「ライフアート通信」に掲載されました。  
作者の井上あやかさん(兵庫県)がイシ又出版に投稿なされたものです。

